

# I. 平成 13 年度事業報告

## 1. 総会・表彰式

### (1) 第 54 回通常総会

平成 13 年 3 月 29 日 (木) 13 時から甲南大学岡本キャンパス 8 号館 813 番教室にて開催。つぎの事項について承認、議決した。

- 1) 平成 12 年度事業報告承認の件, 2) 平成 12 年度収支決算および年度末貸借対照表ならびに財産目録承認の件, 3) 定款一部変更承認の件, 4) 平成 13 年度事業計画および収支予算案承認の件, 5) 平成 13 年度役員・監事・常議員選挙結果報告の件, 6) 名誉会員推薦者承認の件, 7) 表彰者選定結果報告の件。

代議員総数 354 名のうち, 280 名 (うち出席 51 名, 委任状 229 名) が出席し, 代議員の過半数である定足数を満たした。

### (2) 名誉会員推薦

白川 英樹氏を名誉会員に推薦した。

### (3) 表彰式

平成 13 年 3 月 29 日 (木) の第 54 回通常総会に引き続いて行なった。

#### 1) 第 53 回 日本化学会賞

荻野 博 茅 幸二 小菅 皓二 小林 四郎  
竜田 邦明 森島 績

#### 2) 第 18 回 学術賞

赤阪 健 市川 恒樹 月向 邦彦 佐藤 次雄  
下村 政嗣 鈴木 正昭 野澤 庸則 平田 文男  
吉田 潤一

#### 3) 第 50 回 進歩賞

入江 亮 河内 敦 斎藤 進 中村 正治  
西林 仁昭 引地 史郎

#### 4) 第 49 回化学技術賞

- ①中村 秀 杉山 徳英 江藤 恵男 青崎 耕  
遠藤 淳二
- ②市野 昌彬 横山 拓志 小田 慎吾 岩井 保範
- ③國友哲之輔 寺本 和雄 小路 久敬 谷 徹  
花澤 一芳
- ④清水 昌 森川 忠則 新田 一誠 坂本 忠司  
和田 浩一

#### 5) 第 6 回 技術進歩賞

名取 至 三谷 誠 斉藤 純治 松居 成和

#### 6) 第 25 回 化学教育賞

丸山 雅雄

#### 7) 第 18 回 化学教育有功賞

佐々木和也 佐藤 五郎 鳥井 昭美 華井 章裕  
結城 春雄

#### 8) 第 19 回 化学技術有功賞

木谷 武男 村上 昌三 渡部 賢二

## 2. 常議員会

平成 13 年 3 月 23 日 (木) に第 124 回常議員会を開催, 次の諸件につき報告, 審議, 承認した。

- 1) 平成 12 年度事業報告・収支決算報告の承認, 2) “名誉会員” 推薦者の承認及び「第 54 通常総会」上程議案の確認, 3) 定款変更の承認

## 3. 法定理事変更および登録手続

平成 13 年度理事として

岩村 秀 (放送大)	内田 勇 (東北大院工)
岡崎 廉治 (日本女子大理)	奥 彬 (京工織大工芸)
銅金 巖 (住化情報セ)	野依 良治 (名大院理)
藤嶋 昭 (東大院工)	山辺 正顕 (産総研)
伊藤 健児 (名大院工)	市村禎二郎 (東工大院理工)
碓屋 隆雄 (東工大院理工)	魚崎 浩平 (北大院工)
宇根山健治 (岡山工大)	大川 尚士 (九大院理)
門磨 義仁 (JCII)	後藤 達乎 (ダイセル化学)
鈴木 孝治 (慶應義塾大)	相馬 芳枝 (産総研)
高橋 成年 (阪大産研)	濱口 宏夫 (東大院理)
平尾 公彦 (東大院工)	松村 喜雄 (JSR)
横田 幸夫 (富士写真フ)	戸村 健司 (日本化学会)

の 24 氏が就任し, その手続は平成 13 年 4 月 21 日に完了した。

## 4. 平成 14 年度役員候補者

平成 14 年度役員候補者は所定の手続を経て下記の通り決定とした。

会長 野依 良治 (名大院理)  
副会長 相澤 益男 (東工大) 池上 正 (旭化成(株))

城田 靖彦 (阪大院工)	徳田 昌生 (北大院工)
藤嶋 昭 (東大院工)	山辺 正顕 (産総研)
次期会長 瀬谷 博道 (旭硝子(株)) [15 年度会長]	
理事 伊藤 翼 (東北大院理)	碓屋 隆雄 (東工大院理工)
宇根山健治 (岡山工大)	大川 尚士 (九大院理)
川島 隆幸 (東大院理)	黒田 一幸 (早大理工)
月向 邦彦 (広島大院理)	後藤 達乎 (ダイセル化学工業(株))
鈴木 啓介 (東工大院理)	鈴木 孝治 (慶應大理工)
相馬 芳枝 (産総研)	高橋 成年 (阪大産研)
富岡 秀雄 (三重大工)	原田 征喜 (日立化成工業(株))
檜山爲次郎 (京大院工)	宗像 誠二 (旭硝子(株))
横田 幸夫 (富士写真(株))	太田 暉人 (日本化学会)
監事 伊藤 卓 (横浜国大工)	佐々木陽一 (北大院理)
山内 脩 (関西大工)	和田 啓輔 (三菱化学(株))

## 5. 平成 13 年度表彰者

平成 13 年度表彰者は, 所定の手続きを経て, 下記のとおり決定した。

### 第 54 回 日本化学会賞

- 大橋 裕二氏 (東工大院理工)  
「結晶相反応の時分割 X 線解析による分子性固体反応の機構の解明」  
香月 勲氏 (九大院理)  
「金属錯体を用いる触媒的不斉合成反応の開拓」  
北川 禎三氏 (岡崎国立共同)  
「時間分解共鳴ラマン分光法によるヘム蛋白質の構造とダイナミクスの研究」  
斎藤 烈氏 (京大院工)  
「DNA に関する生物有機化学的研究と機能分子の創製」  
高橋 成年氏 (阪大産研)  
「有機 10 族遷移金属化合物の機能に関する研究」  
御園生 誠氏 (工学院大工)  
「金属酸化物触媒の設計基盤の構築」

### 第 19 回 学術賞

- 阿尻 雅文氏 (東北大院工)  
「超臨界水中での水熱合成による金属酸化物微粒子の合成」  
上山 憲一氏 (阪大院理)  
「配位原子への水素結合による金属錯体の機能制御」  
太田 信廣氏 (北大電子研)  
「光誘起ダイナミクスへの電場・磁場効果に関する研究」  
北川 進氏 (京大院工)  
「集積型金属錯体の合理的合成と機能化学に関する研究」  
小林 一清氏 (名大院工)  
「人工複合糖質高分子の創製と材料生命工学への展開」  
相馬 芳枝氏 (産総研)  
「カチオン型金属カルボニル触媒の創製と応用」  
辰巳砂昌弘氏 (阪府大院工)  
「ガラスマトリックス中への超イオン伝導相  $\alpha$ -AgI の常温凍結」  
中條 善樹氏 (京大院工)  
「ヘテロ元素の特性を活かした新しい共役系高分子の創出」  
辻 康之氏 (北大触媒セ)  
「14 族元素化合物の新規遷移金属錯体触媒反応の開発」  
早川 芳宏氏 (名大院入間)  
「力量ある核酸関連化合物合成法の開発」

### 第 51 回 進歩賞

- 網井 秀樹氏 (岡山工大)  
「新しい C-F 結合の活性化とそのフッ素化合物合成への応用」  
一戸 雅聡氏 (筑波大化学)  
「ケイ素及びゲルマニウム不飽和環状化合物の合成, 構造に関する研究」  
小柳津研一氏 (早大理工)  
「 $\mu$ -オキソ不均化錯体系の多電子過程を利用した新機能物質合成法の確立」  
笠井 均氏 (東北大多元研)  
「有機ナノ結晶の作製とその物性及び反応性評価に関する研究」  
佐藤 啓文氏 (分子研)  
「量子化学と拡張 RISM/3 D-RISM の融合に基づく溶液内化学反応理論とその応用」

山口 茂弘氏 (京大化研)  
「13, 14, 15 族元素を含む機能性  $\pi$  電子系の創製」

第 50 回 化学技術賞

日高 恒夫氏, 平山 泰彦氏, 小川 哲朗氏 (旭光学工業 (株))  
「生体材料としてのハイドロキシapatiteセラミックスの開発と実用化」  
前田 修一氏, 黒瀬 裕氏, 竹島 秀治氏, 今村 悟氏,  
鈴木 夕起氏  
(三菱化学 (株))  
「新規な CD-R・DVD-R 用金属錯体アゾ色素の開発」  
雨谷 章一氏, 吉村 祐一氏, 竹内 基晴氏, 紫牟田 正則氏,  
新谷 宣広氏  
(三菱瓦斯化学 (株))  
「高屈折率眼鏡用プラスチックレンズ材料の開発」

第 7 回 技術進歩賞

林 貴臣氏, 柴原 敦氏, 清野 真二氏 (三井化学 (株))  
「新規ホスファゼン触媒の開発」

第 26 回 化学教育賞

片岡 正光氏 (小樽商科大商)  
「大学・学会・地域社会における化学教育活動への貢献」  
川泉 文男氏 (名大院工)  
「大学新時代の化学教育, 科学 (化学) 英語教育, 化学普及への貢献」  
増井 幸夫氏 (元関西女子短大)  
「実践的研究による初等・中等化学教育の啓発・普及への貢献」

第 19 回 化学教育有功賞

阿部 一氏 (仙台第二高)  
「高校化学における基礎的概念教授法の改善と実験教材開発」  
井上 正之氏 (広島学院中・高)  
「実験教材の開発と化学クラブの指導による化学教育への貢献」  
小笠原健二氏 (長野県屋代南高)  
「身近な素材の教材化とわかりやすい授業の実践を通じた化学教育の振興」  
片江 安巳氏 (東京都立竹早高)  
「教育実践とその研究および普及・啓蒙活動による化学教育への貢献」  
北川 英基氏 (兵庫県立御影高)  
「化学教師の研究組織作りと地域活動の育成」

第 19 回 化学技術有功賞

小泉 光男氏 (光高圧機器 (株))  
「化学研究のための超高圧装置の開発と改良」  
佐々木和男氏 (東北大院理)  
「NMR による立体化学決定法の開発」

6. 名譽会員候補者

名譽会員推戴候補者は, 所定の手続きを経て, 下記の通り決定した。

常陸宮 正仁殿下  
伊藤 光男氏  
西村 暹氏  
Gilbert Stork 氏  
George A. Olah 氏  
Ronald Breslow 氏  
Yuan T. Lee 氏  
Harold Kroto 氏  
国武 豊喜氏  
米澤貞次郎氏  
Daryle H. Busch 氏  
Jean-Marie Lehn 氏  
John A. Pople 氏  
Roald Hoffmann 氏

7. 平成 13 年度理事会・委員会開催回数

通常総会	1 回	化学教育賞等選考委員会	1
役員会等		研究交流部門	
常議員会	1	研究交流部門会議	
理事会	6	学術交流委員会	2
顧問会	1	学術研究活性化委員会	6
相談役会	1	国際交流専門委員会	1
支部長・部会長会	2	第 81 春季年会 (2002)	2
運営会議関係		第 82 秋季年会 (2002)	3
運営会議	7	産業委員会	6
将来構想委員会	4	産業懇談会	6
財務委員会	6	化学関係学協会連合協議会	3
職員人事委員会	1	学術情報部門	
コンピューター統括委員会	2	学術情報部門会議	1
環境・安全推進委員会	3	化工誌編集委員会	8
会務部門		日化誌編集委員会 (編集幹事会 3 回含む)	6
会務部門会議	3	欧文誌編集委員会 ( 〃 12 回含む)	14
会員委員会	3	速報誌編集委員会	3
役員等選考委員会	1	季刊化学総説編集委員会	1
学会賞等選考委員会	2	化学教育協議会	
学術賞選考委員会	1	化教誌編集委員会	4
化学技術賞等選考委員会	1	役員会	3

8. 平成 13 年度理事会, 運営会議, 各部門の審議経過

(1) 理事会

厳しい経済情勢のなか, 個人・法人とも会員数の減少傾向が続き, また, 論文誌データベース関連の科研費が打ち切られる等, 財政状況は極めて厳しい状況にある。そのなかで, 従来行われている事業は経費を節減しつつ行い, 会員サービスの向上に努め, 会員の増強と減少防止対策に当たった。その上で, 社会への貢献の一環である化学普及事業「化学展」を行い, 関係団体と連携して基幹学会としての責務を果たした。

山口, 仙台, 東京で化学展を開催した。山口では昨年 5 月 3 日 (木)~5 月 6 日 (日) 小野田サンパークにおいて仙台では 7 月 28 日 (土)~8 月 26 日 (日) 仙台市科学館において本会と仙台市科学館の主催で, 東京では昨年 8 月 16 日 (木)~21 日 (火) 新宿高島屋において開催し, それぞれ予想を上回る盛況であった。

対外事業としては, 化学関係学協会連合会 (化学系 31 学協会で組織) において技術者教育認定機構 (JABEE) に対応する化学分野のプログラム基準を作成し, 今年度はこのプログラムにより, 10 大学 12 プログラムの試行を実施した。また, 同連合会の政策会議では大学での教育に関する諸問題や学協会の現状と課題を把握するためのアンケートを実施し, 「2001 年度

政策会議報告—大学・学協会を取り巻く 4 課題への報告」をまとめた。

化学技術戦略推進機構 (JCII) を中心としたグリーンサステナブルケミストリーネットワークへの協力。文部科学省から振興調査費によるコンピケムに関する調査研究を受託した。

7 学協会が連携して学協会刊行フォーラムを結成し, 英文総合アカウンツ誌「The Chemical Record」を 2001 年 1 月発刊以来年 6 冊発刊した。

内部では, 3 つの課題に取り組んだ。一つは, 学会組織の活動の点検・評価および運営の簡素化・透明化で, 各委員会は 13 年度事業の自己点検・評価を行った。また, 組織を見直し簡素化を図った。二つには情報発信の基盤強化に取り組み, 欧文誌および速報誌の Web 版公開システムを NEC のレンタルサーバから科学技術振興事業団の J-stage に切り替えた。これにより CAS との連携ができる事になり, 今まで抄録しか参照できなかったものが本文を参照できる様になり, 飛躍的にサーキュレーションが良くなる。情報発信の基盤強化にはこの他, 広報室を委員会組織にし, 広報活動の強化を行った。三つには大学院教育のあり方の検討を将来構想委員会へ付託し, 同委員会で代議員を中心としたアンケート調査を行ない, 現在取りまとめ中である。

年会関連では, 現行方式の秋季年会は分野毎に行われている討論会, 地方

大会との関連で集客等に問題があり、廃止は止むを得ないとして、これまで秋季年会に参加していた部会への配慮、地方大会の充実を支援することを前提に2002年度(今年度)の秋季年会をもって廃止することにした。またそれとともに春季年会の活性化について検討に入る。

論文誌関連では、先に述べたほか、投稿論文の減少を契機に日本語の論文誌発刊の意義について検討し、その結果、日化誌を廃刊を視野にいたした休刊とした。また、季刊化学総説誌は50巻をもって刊行を終了した。

環境・安全推進委員会では大学の環境・安全教育が最も重要かつ緊急の課題であるとして、関連事業の企画・推進に努めた。

2003年に創立125周年を迎えるにあたり記念事業を実施することになり、その準備に入った。

化学図書・情報センターを従来の蔵書の閲覧主体の図書館から、情報センター機能へ重点を移し、空いたスペースを会議室に改装し有効利用を図った。会員数の減少、特に法人会員、法人に属する正会員の減少が著しく、法人会員増強を行なったが、この経済情勢では困難であった。

化学教育協議会では、初中等教育から高等教育までの理科・化学教育問題の検討と、化学普及・啓蒙事業を展開している。13年度は情報発信機能の充実、地域活動の活性化と相互交流の基盤作りに取り組んだ。また高校化学グランプリを実施し、国際化学オリンピック参加へ向けての段取りを決めた。「化学と教育」誌をさらに親しみやすく読みやすい記事をモットーに発行している。

財政状況はここ数年と同様の減収傾向にある。14年度予算は関係各位の協力をお願いしたにも関わらず、やむを得ず約3,000万円弱の赤字予算とした。

## (2) 運営会議

運営会議は、理事会の効率的運営を図るため、重要な課題につき予備的に検討していくことで理事会に先立ち開催、その都度熱心な討議が行われた。また、名誉会員推薦者の候補者を選考し、理事会へ推薦した。運営会議傘下の委員会活動状況については以下のとおりである。

### 1) 将来構想委員会

次の3つのWGを設置した。報告書、提案書等は次年度にまとめる。

#### ①大学院教育のあり方WG

#### ②本会の重要課題一若手からの提言WG

イ. 国際交流; ロ. 学会誌を中心とする研究成果発信; ハ. 産業界会員の活動; 等

#### ③ 教育研究基盤調査WG

##### 2) 財務委員会

上述したとおり、14年度予算編成においては収入の減少から関係各位の協力にも関わらず赤字予算を編成せざるを得なかった。14年度予算編成方針を、①全事業の収支バランス、②部門長のリーダーシップによる事業の重点化、③会員へのサービスの向上、④業務の簡素化・効率化、5) 会費値上げの具体的検討、としたが、一財務委員会では財務体質の改善、運営の抜本的改革には至らず、本会を挙げて取り組むことが焦眉の急であると提言した。

##### 3) 職員人事委員会

事務局職員の採用について審議した。

##### 4) コンピュータ統括委員会

本会のコンピュータ環境を統括し、その運用を図るとともに関連事項を組織横断的な視点で審議することが任務。本年度の会議は2回であったが、委員会傘下のWGでは、それぞれの課題について検討が続けられている。

#### ①コンピュータ・システムの統括的管理運営WG

会員管理用として約1000万円かけ4年のリース契約で新ホストコンピュータを導入。

#### ②CSJ-Webの統括的管理運営WG

本会HPのトップ画面を新規更新した。各委員会やその事務局担当者をもっと容易にWeb発信ができるように現在の仕組みの改善、また会員システムとの連携によるWeb上での会員専用ページ提供の早期実現を図る必要がある。Web経由での年会講演申込み等について検討した。

#### ③ネットワークを用いる学術情報発信WG

Web環境を利用し、将来に向けた学術情報の発信のあり方の検討。J-STAGEの利用(BCSJ誌/日化誌)についてテスト中。今後の課題は、情報委員会との守備範囲の調整、情報委員会と連携し論文誌のWeb公開の方針決定と、NECサーバやJ-STAGEの利用方針の見直し。クロスリファレンス、ケムポートなどの情報発信動向の方向性を見極め。オンライン投稿実現への準備(J-STAGEやNIIの利用調査等)。

#### ④CSJ-Web上での事業展開WG

Web環境を利用した化学会の新事業の企画実施。学生の就職活動支援のための法人会員リンク集、研究者・論文誌審査委員データベース、会員向け化学研究関連製品紹介(実験装置、試薬等々)データベースの維持・管理に努めた。研究者データベースについては相談役会などを通じ法人正会員各企業にパスワードの購入を依頼した。また会員向け化学研究関連製品紹介(実験装置、試薬等々)データベースは平成12年度より本格的に立ち上げる予定であったが、経済不況の影響をうけ、広告スポンサーの獲得に苦戦しており、未だ本格的には稼働していない。

なお、本委員会は本会の組織機構の再編によって平成13年度をもって廃止となった。しかし課題によっては継続的な検討が必要であることから、次年度は委員会組織として存続することになった。特に④は、データの信頼性の確保は必須であり、データ更新とメンテナンスなどの作業も継続的に検討する必要がある。また、一時的に先行投資した資金の回収は次年度が3カ年計画の最終年度となるので、全力を挙げる必要がある。

#### 5) 環境・安全推進委員会

予算の大幅削減に伴い、これまでの事業と小委員会の活動を全面的に見直し、効率的な事業の推進を図った。委員会では大学の環境・安全教育が今後最も重要かつ緊急の課題であるとの認識のもと、関連事業の企画・推進に努めた。

#### ①一般市民・企業関係者対象のシンポジウム・講演会など

○事業小委員会企画『化学物質管理に向けた新たな取り組み』:平成13年6月27日、於 日本化学会化学会館ホール、参加者85名。環境省、経済産業省、厚生労働省、東京都から講師を迎え、PCB特別措置法、化学物質の管理、PRTR法と化学物質、シックハウス対策、ディーゼル排出粒子対策についてそれぞれ講演。

○市民公開講座『環境にやさしい化学』特別講演会:平成13年9月23日、於 千葉大学けやき会館(日本化学会第80秋季年會会期中)、参加者140名。環境関連分野の研究者およびマスコミ関係者を講師を迎え、地球温暖化の問題の考え方、環境問題解決の難しさ、グリーンケミストリーと化学物質の安全管理についてそれぞれ講演。

#### ②研究会シンポジウムの企画・実施

持続可能な発展におけるリスク研究と化学者の役割を明らかにすることを目的とした『リスク研究会』平成14年度より発足させることを決め、提案書を検討した。

○グリーンケミストリー研究会「グリーンケミストリーフォーラム」:平成13年6月2日、於 上智大学、参加者120名

○環境動態研究会「内分泌活性化学物質研究の最近の動向」:平成13年1月29日、於 日本化学会化学会館ホール、参加者80名

#### ③環境問題懇談会の開催

官公庁(文部科学省・経済産業省・厚生労働省・環境省・東京都)、業界(日本化学工業協会・日本自動車工業会・日本電機工業会)、報道関係者(朝日新聞社・日本経済新聞社・毎日新聞社)、および学識経験者等から、環境・安全問題に関して広く意見を求めるため本年度は下記を主題に開催した。

○第1回(平成13年10月5日、於 本会会議室、出席者18名):「地球環境および化学物質総合安全管理に関する各行政機関の取り組み」[環境安全問題に対する本会の役割]

○第2回(平成14年1月21日、於 本会会議室、出席者16名):「一般市民が環境意識・認識を高めるために本会はどう行動すべきか」

#### ④調査・研究の推進

○『化学物質のリスクコミュニケーション手法ガイド』の出版:平成9年度~11年度の3年間にわたり、環境庁・通産省の委託を受け「化学物質のリスクコミュニケーション手法検討」調査を行った。その成果をまとめ事業者・行政・市民団体用の『化学物質のリスクコミュニケーション・ガイド』をぎょうせい(株)より出版した。

○『化学物質総合安全管理のための環境・安全ファシリテータ育成の調査』[化学物質の総合安全管理のための環境安全調査]:「情報公開法」および「化学物質管理促進法」の制定により、リスクコミュニケーションが極めて重要となっている。特に一般市民に対し化学物質について関連情報を調べ、事業者および行政に対し、適切な助言を与えることのできる「ファシリテータ」の存在が今後不可欠になる。そこで米国の実情を調査し、わが国が「ファシリテータ」育成に際し探るべき方策の検討を目的に昨年度、経済産業省の委託を受けた。本年度その成果を調査報告書をまとめた。また事業者が地域住民との円滑なリスクコミュニケーションを行うため、①リスクコミュニケーションの先進的な事例調査、②リスクコミュニケーション冊子の作成およびHP用コンテンツの作成、を経済産業省より本年度受託、調査委員会を発足させた。平成14年3月には最終報告書をまとめる。

○『有機スズ代替化学物質による環境影響の総合的評価』:(社)日本造船研究協会より5種類の有機スズ代替化学物質の環境リスクについて有機スズとの相対リスク評価を行うことを目的に受託、調査委員会を発足させた。平成14年3月には最終報告書をまとめる。

○『グリーンサステイナブル・ケミストリーDB構築への協力』:産業技術総合研究所より、標記DB構築への協力要請があり、企画提案書を作成し提出した。

#### ⑤環境・安全に係わる人材育成活動

○『環境安全シンポジウム』の企画:これからの大学の環境安全教育のあり方について討論。平成13年3月29日(木)10時~17時、於 甲南大学(第79春季年會会場)、参加者200名。なお昨年、化学物質管理促進法(PRTR法)が施行され大学もその対象となった。また平成15年に国立大学は独立行政法人化され、労働安全衛生法に基づく環境・安全

管理対策が求められる。こうした問題に今後大学はどう対応しなければならぬか専門家より情報提供してもらい広く議論するため下記シンポジウムを企画した。

平成14年3月28日(木)9時~12時, 於 早稲田大学西早稲田キャンパス(第81春季年会会場)

⑥大学における安全教育と安全管理に関するスクーリングの実施およびスクーリング用参考書の編集・出版

大学における教育指導者・管理者を主対象に, 安全知識の普及, 安全意識の向上, 安全の維持を図る目的で, 本委員会および各支部で下記スクーリングを実施した。なお, 出席者より要望のあったスクーリング用の参考書『化学安全ノート』の出版を防災小委員会が中心となり, 平成14年5月を目途に出版することにし編集作業を開始した。

○「大学の安全教育指導者・管理担当者のためのスクーリング」:平成13年8月20~21日, 於 日本化学会化学会館ホール, 参加者54名

○「大学における安全教育と安全管理に関するスクーリング(九州地区)」:平成13年10月16日, 於 佐賀大学理工学部, 参加者120名

○「大学における安全教育と安全管理に関するスクーリング(中国四国地区)」:平成13年11月24日, 於 岡山大学大学院自然科学研究科, 参加者110名

⑦大学における環境・安全カリキュラムの作成と教科書の編集・出版

大学における環境・安全教育の重要性を主張, カリキュラムのあり方について検討し, 大学の文系一般学生および理工学系学生を対象とするカリキュラム案を作成, 「化学と工業」誌に提案, 広く意見を求めた。さらに委員会では, このカリキュラムを基に各大学の環境・安全教育のための教科書を作成することにし, 平成15年4月の出版を目途に, 編集小委員会を設置し作業を開始した。

⑧学部学生対象の環境教育用参考書の作成と環境用語に関するアンケート調査

教育小委員会が中心となり, 学部学生を主対象に, 化学を学んだ学生にふさわしい知識と, 環境を科学的に思考する姿勢を身につけるためのテキストとして「本音で話そう, 地球温暖化」を丸善(株)より出版した。また大学入学時の学生が環境について, どの程度の知識を持っているかを, 化学系, その他理工系, 環境を冠する学部学生, 教育系, 人文系を含む全国の約140の大学一年生にアンケート調査を実施し, 約13,000人から回答を得た。解析結果は報告書にまとめマスコミを含め公表した。第2回目の調査を実施することにし, 質問内容, 実施方法等について検討, アンケートを作成した。

⑨グリーン・サステイナブルケミストリー・ネットワークへの対応

平成12年度に(財)化学技術戦略推進機構内に「グリーン・サステイナブルケミストリーネットワーク(GSCネットワーク)」が組織され, 本会は高分子学会・化学工学会・日本バイオインダストリー協会等とともに全面協力。環境・教育にかかわる課題での討議, 関連ワークショップ(平成13年10月)の開催, 「グリーン・サステイナブルケミストリー賞」の制定等に協力し選考委員を推薦した。

⑩環境安全情報の提供と広報・出版事業の推進(会員及び一般市民への広報)

○化学防災指針の作成:防災小委員会が中心となり, 関連業界および企業の協力を得て, 現在『二酸化炭素』『ヒドロキシアミン』の原案を作成中。

○機関誌「化学と工業」およびホームページによる環境関連情報の発信:「化学と工業」コラム「化学会発」欄に本委員会の活動に係る内容や環境安全関連のトピックスを掲載した。なお, 次年度は本会HPで環境・安全関連情報を発信する予定。

○「環境憲章'99」「行動5カ年計画」「環境・安全推進委員会2000NOW」の周知

本委員会で作成した上記パンフレット(カラー)を, 一般市民対象のシンポジウムや講演会等, において広く配布した。

6) 化学技術者教育委員会

前身の化学教育協議会傘下の「技術者教育認定制度検討WG」から, 基盤委員会の一つとして「化学技術者教育委員会」に変更になった。本委員会の役割は, ①化学技術者教育に関する本会内外の動きに対応する窓口として審議及び具体的な活動を行う, ②本会独自の化学(技術)者 qualification システム設置の可能性に関する調査検討, である。

今年度は, 学協連で実施するJABEEの化学分野における試行審査10大学12プログラムの化学会窓口として, 審査員候補選出, 審査員研修および実地審査を受け持った。また, 秋季年会場で「化学技術者教育に関わる公開討論会」を開催した。

そのほか, 日本工学会で実施している「技術者生涯教育システム調査委員会」に伊藤卓委員長がオブザーバー参加, JSTで実施している生涯教育事業に, 本化学会から津野力雄(花王)氏が参加した。また, JSTで実施するWeb教材開発事業「技術者の能力開発・再教育のための情報提供」事業について, 日本化学会として協力することになったので, 学術研究活性化委員会が実施している「先端ウォッチング」を中心課題として対応した。

7) 創立125周年記念事業特別委員会

来る平成15年(2003年)本会は創立125周年を迎える。平成12年度の創立125周年記念事業準備委員会の答申を受けて本年度から発足した本委員会は, 傘下に4委員会「事業企画・式典委員会」「記念誌発行委員会」「化学教育・普及委員会」「募金委員会」を設置し, 具体的な準備検討を開始した。

①事業企画・式典委員会(委員長 澤田嗣郎(東大院新領域))

○記念式典:平成15年3月19日(水)13時~14時50分, 早稲田大学大隈講堂, 来賓祝辞:海外国際機関・化学会代表。外国人名誉会員推薦:6名のノーベル化学賞受賞者を含む8~9名の外国人名誉会員を推薦予定。

○ノーベル化学賞記念国際フォーラム:平成15年3月19日(水)15時15分~17時30分, 会場 早稲田大学大隈講堂, 受賞者による講演と討論,

○記念祝賀会・第83春季年会懇親会合同大会:平成15年3月19日(水)18時30分~20時30分, リーガロイヤルホテル東京・ロイヤルルーム。

②記念誌発行委員会

○化学普及書の編集発行:日本化学会編『大人になるための化学入門』(仮称), B5判変形, 184ページ, 4色。この一冊で化学の基本が理解できるように企画。発行(株)化学同人。読者対象:中・高校生, 教員, 一般市民。現在一部を除き執筆依頼済。平成15年1月発行予定。

○英文史の編集発行と情報発信:日本化学会編, 150頁, ハードカバー。海外化学会・国際機関の会長からのメッセージ, ノーベル化学賞受賞者の業績紹介, 世界に誇るわが国研究・開発業績の紹介, 日本化学会の創立から現在までの歴史と活動などを英文で小冊子にまとめるほか, 本会ホームページで紹介し海外に発信する。現在一部原稿執筆中。平成15年3月発行予定。

③化学教育・普及委員会

本会各支部および化学教育協議会の協力を得て全国各地で小・中・高校生・一般市民を対象に下記を全国規模で実施予定。

○ミニ化学展・記念講演会・展示会などの企画開催

○大学教員による実験指導『出前講演会』『講師派遣事業』の実施

○第35回『国際化学オリンピック』(ギリシア)への参加

④募金委員会(委員長 和田啓輔(三菱化学(株)))

平成13年3月より個人募金を開始, 平成14年3月より法人への募金活動を開始する。

平成14年2月末日までの募金総額は約1,200万円。醸金者名は化学と工業誌に掲載。

8) 広報委員会

本会の広報活動は, これまで運営会議の下に設置された広報室が任務を遂行していたが, 学会における広報活動を一層強化するため, 委員会組織に再編, 平成13年度から運営会議の傘下に本委員会が設置された。

①年会の広報活動

○第80秋季年会(2001)関係:平成13年9月11日, 本会会議室で報道関係者22名の出席を得て記者会見を行った。第80秋季年会の全体概要, シンポジウムハイライト講演12件, 招待講演5件, 市民公開講座, 公開討論会, イブニングセッション等の内容について, 小倉克之(千葉大工)実行委員長, 堀善夫(千葉大工)・中平隆幸(千葉大工)両実行委員にハイライト集をもとに説明頂いた。その内容は, 新聞紙上および千葉市発行の広報誌などに取り上げられた。

○第81春季年会(2002)関係

広報委員会内に「第81春季年会(2002)広報WG」を組織し, 特別講演, 特別企画, 一般研究発表でのハイライト講演を選抜した。記者会見は平成14年3月11日(月)11時~13時, 本会会議室で開催予定。

②野依良次次期会長ノーベル化学賞受賞の広報活動

○広報記者会見の実施と報道機関への対応, および本会HPへの会長メッセージの掲載:2001年ノーベル化学賞を受賞された野依次期会長の受賞研究業績等について, ノーベル財団より発表された当日より, リリース用の関連資料を準備・作成し記者会見を行ったほか, 報道機関からの多数の問い合わせに対応した。これらの内容は新聞紙上に多数取り上げられたほかTVニュースでも報道された。なお, 本会HPに岩村会長のお祝いのメッセージを掲載した。

(第1回記者会見)平成13年10月10日(水)21時~22時30分, 本会会議室。本会説明者:岩村会長, 岡崎副会長, 平尾理事, 太田事務局長。報道関係者出席数16名。

(第2回記者会見:野依教授を囲む会として開催)平成13年10月16日(火)13時~14時, 本会会議室。本会説明者:野依次期会長, 藤嶋副会長, 山辺副会長, 太田事務局長。報道関係者出席数38名。

○化学と工業への関連記事掲載企画, 受賞記念講演会・祝賀会の開催計画第1回委員会で化学と工業11月号~1月号に掲載する受賞特集記事執筆候補者を選定。。また, 朝日新聞社・有機合成化学協会との共同主催による受賞記念講演会, および有機合成化学協会・化学技術戦略推進機構との共同主催による受賞記念祝賀会の日時・会場・式次第・進行担当者などを決定。

(受賞記念講演会)平成14年1月11日(金)14時~17時, 朝日ホール(東京・有楽町),

出席者約 650 名。

(受賞記念祝賀会) 平成 14 年 1 月 11 日 (金) 18 時～19 時 45 分, パレスホテル (東京・大手町), 出席者 280 名。

- 記念講演会・パネル討論の企画, “週刊朝日” への関連記事掲載企画  
第 2 回拡大広報委員会で上記記念講演会のパネリストの選出, 祝賀会次第および週刊朝日の特別企画『野依教授ノーベル化学賞受賞と日本化学会』の執筆テーマと執筆者について, それぞれ検討した。記念講演会の内容は平成 14 年 1 月 21 日付け朝日新聞朝刊で詳細に報じられた。また, “週刊朝日” の特別企画記事は平成 14 年 1 月 8 日発売の新年号に掲載。

### (3) 会務部門

本部門は「会員委員会」「役員等選考委員会」「各賞選考委員会」を統括する。会員委員会では会員増強策を講じているにも関わらず, 諸般の情勢から会員減を来している。今年度は CD-ROM 版会員名簿の発行, 会員証の発行, 会費引当期間の統一等を行った。役員等選考委員会は, 所定の手続きを経て次年度役員を選考した。各賞選考委員会は, 厳正なる審査を経て本年度各賞受賞者を選定した。

会務部門としては, 昨年度の定款変更を受けて諸規定の変更, 事業の消長による規定の改廃, 設定等を行ない, 理事会の承認を得た。また, 各賞選考規程の見直しを次年度へ申し送った。

### (4) 研究交流部門

研究交流部門会議および傘下各委員会の今年度の活動は概略以下のとおり

#### 1. 研究発表事業

##### (1) 春・秋年会実行委員会

- ①第 79 春季年会 (2001): 平成 13 年 3 月 28 日 (火)～31 日 (金), 甲南大学岡本キャンパスで開催。一般研究発表 4,155 件, ポスター発表 1,252 件, 依頼講演 80 件, 特別講演 41 件, 受賞講演 11 件, 特別企画講演 68 件, 参加登録者 8,238 名。

- ②第 80 秋季年会 (2001): 平成 13 年 9 月 20 日 (木)～23 日 (日), 千葉大学西千葉キャンパスで開催。一般研究発表 247 件, ポスター発表 285 件, シンポジウム招待講演 51 件, 同依頼講演 104 件, 同応募講演 363 件, BCSJ 賞依頼講演 6 件, 学術賞受賞講演 9 件, 若い世代の特別講演 6 件, 連合討論会 293 件 (生体機能関連シンポジウム 182 件, バイオテクノロジー部会シンポジウム 71 件, 有機結晶部会シンポジウム 40 件), 科研費特定領域研究シンポジウム 28 件, イブニングセッション 20 件 (キラル化学 10 件, 先端高分子化学 10 件), 参加登録者 2,296 名。

- ③上記のほか, 以下の準備が進行中。

第 81 春季年会 (2002): 平成 14 年 3 月 26 日 (火)～29 日 (金), 早稲田大学西早稲田キャンパス

第 82 秋季年会 (2002): 平成 14 年 9 月 25 日 (水)～28 日 (土), 大阪大学豊中キャンパス

##### (2) 討論会・部会・研究会

- ①討論会: 例年どおり本会主催・共催として 36 件を承認。

- ②部会: コロイドおよび界面化学, 情報化学, 生体機能関連化学, バイオテクノロジー, 有機結晶の 5 部会で, 例年どおり講習会, シンポジウム, ニュースレターの発行など順調に事業を推進している。

- ③研究会: 本年度までに C60, 基礎錯体工学, 酸性雨, 有機素反応, 量子有機化学, ソフト溶液プロセス, 高精度分子設計, 理論化学, 結晶化学, 生命化学, ヨウ素利用, 化学電池材料, 環境動態, グリーンケミストリー, メスバウア分光の 15 研究会が設置されており, それぞれの研究会でシンポジウムの開催やニュースレターの発行などの活動が行われた。なお次年度からは新たに規定された研究会規約に則り運営される。

#### 2. 研究交流支援事業

##### (1) 産業委員会・産業懇談会

産業委員会および産業懇談会は合同で今年度会議を 6 回開催し, 下部組織に「シンポジウム分科会」「将来分科会」を設け以下の事業を行った。なお産業委員会・産業懇談会は, 次年度より本会の産・学・官事業の強化に伴い, 新設される産学交流部門での「産学交流委員会」に組織変更される。これに伴い, 次年度より既存事業の見直しと新組織の効率的な運営について WG を設け検討することになった。

- ①第 79 春季年会 (2001) の際下記事業を実施した。また, 第 81 春季年会 (2002) でも同様の企画を進めている。

○講演奨励賞: 高分子, 材料化学, 材料の機能, 材料の応用, 資源利用化学, エネルギー, 環境・安全化学の 7 部門の一般講演の若手研究者 (37 歳以下) を対象に「シンポジウム分科会」選考委員会で審査の結果, 18 名を表彰。

○ポスター賞: 年会プログラム (一般講演) 小委員会の協力により「シンポジウム分科会」選考委員会で審査の結果, 41 名を表彰。

○特別企画「このままでよいのか日本の研究開発」「光エレクトロニクスの現状と今後」を実施した。第 81 春季年会 (2002) では「CO<sub>2</sub>問題と化学産業」「日本の化学産業のビジネスモデルはいかにあるべきか」を実施予定。

○「第 4 回化学テクノフォーラム 21—化学企業をみてください。その技術

と未来」ポスター形式により各企業の自由な発想で発表する場とし, 産業懇談会メンバー会社に参加協力を求め実施した。第 5 回目は「産学連携の基本—企業の現在を知る」をテーマに実施の予定。

- ②平成 13 年度産学交流会 (旧称は産業懇談会総会): 平成 13 年 11 月 6 日, 本会ホールで開催。出席者 68 名 (企業 51 名, 学等 17 名)。宮田清蔵 (農工大学長), 鶴田治樹 (高砂香料工業(株)専務取締役) 両氏の基調講演があり, 産・学・官関係者の交流を行った。

- ③技術開発フォーラム: 今年度は下記 2 件のフォーラムを実施した。

○第 6 回フォーラム長 逢坂哲弥氏 (早大理工) 参加者 22 名  
「エレクトロニクスの最先端とこれからの動向—化学材料からのアプローチ」

○第 7 回フォーラム長 藤嶋 昭氏 (東大院工) 参加者 51 名 (2 回分)  
「光触媒スクール: 光触媒の最先端とこれからの動向」

- ④研究所長フォーラム「パネル討論会シリーズ—21 世紀に化学はどう変わるか (第 1 回) 独立行政法人下での産学の役割と協力»: 平成 13 年 12 月 5 日, 本会ホールで開催。出席者 53 名。

○パネリスト: 田中正人氏 (東工大資源研), 北澤宏一氏 (東大院新領域), 村井真二氏 (阪大院工), 池上 正氏 (旭化成), 大西 優氏 (鐘淵化学)

○話題提供者: 渡邊英一氏 (化学工学会), 総合司会: 和田啓輔氏 (三菱化学)  
企業で研究開発マネージメントを担当されている方々に, わが国の化学産業が抱えている諸問題や産・学・官の今後のあり方について意見交換する場を提供すること目的に今年度第 1 回を開催。平成 14 年度にも第 2 回を実施すべく現在企画立案中。

##### (2) 学術交流専門委員会

今年度会議を開催しなかったが, 化学技術戦略推進機構 (JCII) から要請のあった平成 15 年度研究プロジェクトのテーマ提案の要請に基づき, 委員会内に WG を設け検討の結果, 『化学技術の挑戦—完全物質循環系を目指して』をテーマとする提案書を作成, JCII に提出した。また本会と JCII との連絡会を開催し相互の情報交換を行った。

- ①調査研究受託事業: 文部科学省振興調整費「固相精密合成法によるケミカルライブラリーの構築を基盤とする超機能性材料の創製と評価に関する研究」プロジェクト [責任者: 遠藤 剛 氏 (山形大工)] の一環として, 本会は『超機能性材料におけるライブラリーの評価』に係る調査研究を受託 [受託金額約 660 万円]。平成 14 年 4 月を目処に成果報告書をまとめる予定。

##### (3) 学術研究活性化委員会

本委員会は会議を 5 回開催。先端ウオッチング調査, 春・秋季年会の活性化, 研究会の今後のあり方を中心に検討した。

- ①先端ウオッチング調査: 分子認識化学, クラスタ科学, バイオマテリアル, 理論化学・計算化学, キラル化学, 先端高分子化学の 6 テーマについて調査, 報告書にまとめた。第 79 春季年会 (2001) では前記 4 テーマ, 第 80 秋季年会では後記 2 テーマのイブニングセッションをそれぞれ実施した。また現在, 触媒化学, 無機固体化学, 海洋天然物化学, 糖鎖工学, 電気化学, 環境ケミカルサイエンスの 6 テーマについて報告書を作成中であり, こられは第 81 春季年会 (2002) でイブニングセッションを実施予定。今後は錯体化学, バイオインフォマティクス, コンビナトリアル化学の 3 テーマについて報告書にまとめるほか, 第 82 秋季年会 (2002) でイブニングセッションを実施予定。さらに, ナノ分析化学, コロイド・界面科学, 全合成, 分子ナノテクノロジー, 分子エレクトロニクスの 5 テーマの調査を行う予定。

- ②先端ウオッチング調査の出版: 調査でまとめられた内容は, 2003 年の本会創立 125 周年記念事業に併せ, 丸善(株)より『21 世紀の化学の潮流を探る』シリーズとして 4 分冊の単行本にまとめ出版予定。また, 平成 14 年 2 月より化学工業日報に各テーマごとに課題, 将来展望をまとめ連載する予定であるほか, 科学技術振興事業団からの委託によりインターネットを利用した技術者の継続教育用教材の一部に提供する計画が進行している。

- ③春・秋季年会の活性化策の検討: 委員会内に年會活性化検討 WG を発足させ, 秋季年会のあり方および春季年会の活性化策について検討し, 別紙の提言書をまとめた。その内容は学術研究活性化委員会ならびに研究交流部門の審議を経て運営会議・理事会に提案され, ほぼ提案どおり決定された。

- ④研究会のあり方: 本会の研究会に対する基本方針が不明確であることから, 委員会で基本方針を検討し, 会員への情報公開と事務手続きの点での最低限の遵守を基本に, できるだけフレキシブルな運営を可能とすべく現行の研究会規約の改正案を作成, 研究交流部門・運営会議に提案した。

##### (4) 国際交流委員会

本委員会は今年度会議を 1 回開催した。

- ①環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM: International Chemical Congress of Pacific Basin Societies): 2000 年会議の報告会が 2001 年 6 月ホノルルで開催された。参加者 8,963 名 (日本 4,773), 発表件数 8,774 件 (日本 4,616)。

2001年12月、2005年会議の調印式および第1回国際組織委員会がハワイ島で開催された。米国、カナダ、日本、オーストラリア、ニュージーランドに今回より韓国が主催国の一員として加わるようになった。2005年の会長国は日本（組織委員長：村井眞二氏（阪大院工））。会期は2005年12月15日～20日と決定、その他会議開催のための準備を開始した。日本への国際組織委員会招致は2003年4月の予定。

②アジア化学会連合（FACS：Federation of Asian Chemical Societies）：2001年7月、9 ACC（9th Asian Chemical Congress）がオーストラリア・ブリスベンで第11回FACS総会と併せ開催され、ホスト国が台湾からオーストラリアに引き継がれた（会長Dr. Barry Noller（Nat'l Ctr. Env. Toxicology, Australia））。日本からは、松本和子（早大理工）、伊藤真人（創価大工）、大瀧仁志（立命館大理工）の3氏が参加。また同年12月、Ex-co会議がシンガポールで開催され、Ex-coメンバー（Coordinator of Projects）の伊藤真人氏のほか、松本和子・田端正明（佐賀大理工）（ANAIC Project Director）の両氏も参加された。会長国が日本から台湾へ移譲され、大瀧委員がPast PresidentおよびFACSの幹事の一人として参加。委員会では、FACSに対する今後の方針について検討された。なお、本会におけるFACS担当委員は松本和子氏。

③国際純正・応用化学会連合（IUPAC）：現在41社が賛助会員。IUPAC賛助会員会議を1回開催（主査：石谷炯氏（神奈川科学技術アカデミー））。DIDAC（Agfa社開発の化学教育用のOHP教材）の翻訳作業を進めており、2002年に完成予定。2001年7月、IUPAC主催のWorld Chemical Congress（Brisbane, Australia）に石谷主査を始め、わが国より多数参加。会長選挙の結果Prof. Leiv K. Sydes（Norway）が選出された。

④南方アボガドロレクチャー（Minakata-Avogadro Lectureship）：イタリア化学会-日本化学会の二国間協定。1～2年ごとに交互に著名化学者1名を派遣・招聘し情報交換および講演会を開催してきた。しかし、財政的な観点から実施を見合わせる方向でイタリア化学会に意向を打診中であったが、2000年に再締結したことを踏まえて2002年に日本側から講演者を派遣予定。3名の候補者を運営会議で選出し、イタリア化学会へ近く提示予定。

⑤中西プライズ（Nakanishi Symposium）：1996年、コロンビア大学中西香爾教授の業績を讃え、米国化学会および日本化学会が有機化学・生物有機化学および関連分野における日米両国と他の国々との学術交流、研究促進を目的として設立。シンポジウムを毎年交互に開催、期間中にナカニシプライズを授与。本年度は2回の基金運営委員会（委員長：大橋 守氏（神奈川大工））および3回のナカニシプライズ選考委員会（委員長：山村庄亮氏（慶大名誉））を開催。2002年度受賞者には、Prof. Sir Jack Baldwin（Univ. Oxford）を選出。第81春季年会（2002）でナカニシシンポジウムを開催予定。授賞式および講演会が行なわれる。

⑥アジア医薬化学連合（AFMC：Asian Federation of Medicinal Chemistry）：本会担当は楠本正一理事。2001年7月ブリスベンで総会（日本化学会からは不参加）および上記World Chemical CongressでAFMCの国際会議（AIMES 01）が開催された。なお、2002年1月からAFMC事務局が日本薬学会に移り、小林利彦氏が会長となった。2003年10月京都でAIMECS 03の開催が決定された。

⑦国際会議関係：本会主催により「第15回リソに関する国際会議」（平成13年7月29日～8月3日、仙台、委員長 吉藤正昭氏（東北大学教授）が開催された。

⑧米国化学会との会員相互割引制度、各国より提案のあった2国間協定、オーストラリア化学会より提案の世界化学界の共通問題を審議する世界化学会会長会議（仮称）発足について検討した。

### 3. 対外的事業に関する事項

(1) 化学関係学協会連合協議会（化学会系31学協会が組織）

①化学関係学協会連合協議会内に「化学技術者教育部会」（委員長：西郷和彦氏（東大院新領域））が設置され、平成12年度から検討を続けてきた分野別要件が承認され、本年度は10大学12プログラムの試行を実施した。

②化学関係学協会連合協議会は、これまで学会共通問題の情報交換を目的に連絡会的に開催されてきた。今年度からは、より具体的な共通問題の検討および提言が可能な組織体制とするため、政策会議（議長、館 科氏（鐘淵化学））が設置され、大学での教育研究に係わる諸問題や学協会の現状と課題を把握するため、アンケート調査を行いその結果を『2001年度政策会議報告—大学・学協会を取り巻く4課題への報告』にまとめた。来年度さらに具体化に向けて検討を続ける。

(2) 科研費審査委員候補者の推薦

日本学術会議から依頼された化学、材料工学、プロセス工学、工業化学の各分科細目ならびに複合領域の平成14年度審査委員候補者を選出・推薦した。

(3) 他機関の賞・助成金候補者の推薦

東レ科学技術賞・研究助成、日産科学賞・研究助成、山田科学助成など他機関から依頼された賞・助成金について、例年のように本会で審査のうえ候補者を推薦した。

### (5) 学術情報部門関係

学術情報部門が掌理する委員会は、化工誌・日化誌・欧文誌・速報誌・季刊化学総説誌の各編集委員会で、当委員会の事業・運営に関する事項および会誌以外の刊行物に関する事項等について審議した。

1) 機関紙関係：化工誌では1年間を通して「21世紀の化学」を取り上げた。特集として、「化学のフロンティア2001」「はばたけ若き研究者たち」「アミューズメントの化学」「携帯電話の化学」等を企画発行した。

発行回数 12回、総頁数 2,032頁、総発行部数 379,700部

2) 論文誌関係：

日化誌は、投稿論文の勧誘・促進につき歴代委員長・委員が懸命な努力を傾注してきたが、低下傾向を挽回するには至らず、やむなく平成14年3号をもって「休刊」と決定された。

欧文誌は、平成13年1号から製作委託先を変更したために種々の不具合を生じ、年度の前半は発刊が遅れる事態となったが、逐次常態に復した。2000年7号からは「BCSJ賞」開始し各方面の関心を集めた。それに先立つAccountsの掲載開始など改善へ向けての編集委員会の長年の努力が報われ、インパクトファクターが「1.52」(1999)から「1.83」(2000)へと向上した。

速報誌は、平成14年1号から製作委託先を変更したが、論文の質の向上をめざして「製作顧問」制度をスタートさせテクニカルエディットを行っている。

欧文誌Web版については、製作会社の不具合により発信が遅れたため、有料公開を一旦休止した。欧文誌・速報誌とも新年(2002年1月号)よりJ-STAGE上で新たな試験公開を再開し、現在はCASからのリンクが張られ、情報の流通が飛躍的に向上した。

論文誌発行状況（平成13年3月～平成14年2月）

	日化誌	欧文誌	速報誌
発行回数	12回	12回	12回
論文掲載数	115件	313件	694件
総頁数	972頁	2,764頁	1,704頁
総発行部数	31,700部	37,600部	43,600部

3) 季刊化学総説関係：本年度は次の総説誌を刊行した。

「No.48 糖鎖分子の設計と生理機能」「No.49 新型電池の材料化学」「No.50 内分泌かく乱物質研究の最前線」

本年度は、当初の予定通り50巻まで刊行したことでその任務を終了し、新たな季刊化学総説は発刊しないこととした。

4) 本部門としては、日化誌を平成14年3号で「休刊」することが決定されたのを受け、他の学協会との連帯等も含め、新たな発行形態の可能性について討議を重ねたが、現時点では良策は無いとの結論に至った。

### (6) 化学教育協議会

基本方針 ①情報発信機能の充実、②地域活動の活性化と相互交流の基盤作り、③緊急的課題への即応)の徹底を図り、WGの目標明確化・成果発信を積極的に行った。支部活動との連携強化、小中高の先生方の活躍作りは効果をあげてきているが、本部との連携強化については、今後の課題として残した。また、来年度からは、学校教育委員会、普及・交流委員会、化教誌編集委員会委員長（副議長）が、傘下の小委員会およびWGの進捗管理が確実に行えるための報告の仕組みづくりと、主査・小委員会委員長への周知徹底を行う。

成果発信の例としては、化教誌への「マイクロスケール実験広場」「定番！化学実験」「よい大学入試とは何なのか」「大学の化学教育の改革」など各WGの活動成果の連載が始まった。また、会員増強WGのアイデアによる「書評」や「知っとく情報」など化教誌を親しみやすくする欄も設置・連載を始めた。さらに、総合的な学習の時間に向けてPARTⅡ「理科・化学からの提案」の普及・浸透に向けて、WGメンバーが東京・岐阜・北海道で講演会等を実施し、その他外部の集会で本の販売も担当した。

来年度に向けては、①地域活動支援のための教育委員会等への働きかけも含む初中等の先生方への活動の場の提供・支援の一層の強化、②外部への積極的発信・連携強化による科学教育改革の動き促進の一端を担う挑戦的取組み策の検討、③活動基盤の強化に向けての会員増、収入増の企画・実行、会員増の対象に新たに高等教育の場を加え、化学教育協議会活動の化学会内での浸透、を図る。2003年の国際化学オリンピックへの派遣準備をする。

平成14年度化学教育協議会

(1) 役員会

議長 細矢治夫（お茶の水女子大名誉教授）

副議長 伊藤 卓（横浜国大院工）

小坂田耕太郎（東工大資源研）

柄山正樹（東京女学館中・高等学校）

役員 池上 正（旭化成(株)、日本化学会副会長）

鈴木孝治（慶応大理工、日本化学会理事）

太田暉人（日本化学会常務理事）

片岡正光（小樽商科大）

黒田智明（立教大理）



渡辺 正 (東大生産研)

柄山正樹 (東京女学館中・高等学校)

今福公明 (熊本大理)

隈 弘夫 (大阪大院理)

(2) 支部議長会

細矢治夫 (お茶の水女子大名誉教授) 片岡正光 (小樽商科大)

甲 國信 (東北大院理)

黒田智明 (立教大理)

立花 齊 (名古屋工大)

隈 弘夫 (大阪大院理)

東 長雄 (愛媛大理)

今福公明 (熊本大理)

渡辺 正 (東大生産研)

伊藤 卓 (横浜国大院工)

小坂田耕太郎 (東工大資源研)

柄山正樹 (東京女学館中・高等学校)

下井 守 (東大院総合文化)

畑中研一 (東大生産研)

松原静郎 (国立教育政策研)

(4) 学校教育委員会

委員長 伊藤 卓 (横浜国大院工)

副委員長 妻木貴雄 (筑波大附属高等学校)

(5) 普及・交流委員会

委員長 柄山正樹 (東京女学館中・高等学校)

副委員長 西原 寛 (東大院理)

(3) 運営委員会

委員長 渡辺 正 (東大生産研)

委員 伊藤 卓 (横浜国大院工)

歌川晶子 (多摩大附属聖ヶ丘中・高等学校)

小坂田耕太郎 (東工大資源研)

(6) 化教誌編集委員会

委員長 小坂田耕太郎 (東工大資源研)

副委員長 梶山正明 (筑波大附属駒場中・高等学校)

会員現況

会員種別	平成13年 2月末 現在	平成13年度中								平成14年 2月末 現在	年度内 増減
		入会内訳			退会内訳				修正変更		
		新入会	復帰	入会計	退会	死亡	除籍	退会計			
個人正会員	27,137	523	119	642	1,282	93	1,703	3,078	1,470	26,171	-966
学生会員	5,759	2,821	22	2,843	299	2	118	419	-1,477	6,706	947
教育会員	2,178	113	8	121	88	7	66	161	7	2,145	-33
名誉会員	59					3		3	1	57	-2
法人正会員	609	12		12	30			30		591	-18
公共会員	664	12	1	13	18			18		659	-5
賛助会員											
合計	36,406	3,481	150	3,631	1,717	105	1,887	3,709	1	36,329	-77

9. 平成 13 年度支部事業

(1) 北海道支部

事業名	回数	講演件数 ( )内は 特別講演 件数	見学 (回)	その他	懇親 会	参加 者数
幹事会	3					
役員懇談会	1				1	
学会賞等推薦委員会	1					
学術賞推薦委員会	1					
化学教育協議会	1					
支部役員選考委員会	1					
夏季研究発表会	1	141 (2)			1	231
冬季研究発表会	1				1	250
北見地区化学講演会	1	(2)			1	140
旭川地区化学講演会	1	(2)			1	72
釧路・帯広地区化学講演会	1	(2)			1	25
室蘭・苫小牧地区化学講演会	1	(2)			1	82
函館地区化学講演会	1	(2)			1	46
化学セミナー	1	5			1	71
化学普及(化学教育)事業 北海道地区化学教育研究協議会	1	5(1) 討論会(1)				37
化学への招待 (大学への二日体験入学)	1	(3) 実験(26)			1	55
化学への招待 (高校生のための化学：三笠高校)	1					38
：浦河高校	1					50
化学への招待 (中学生・高校生のための化学実 験講座：函館高専	1					40
：旭川高専	1					13
：苫小牧高専)	1					15
理科教育センター	1					
外国人学者講演会(7件)						
Prof Hugo Berghmans 講演会	1					35
Maria Vittoria Russo 教授 講演会	1					15
C.A. de Lange 教授 講演会	1					30
Bernhart Lippert 教授 講演会	1					40
Woon-kie Paik 教授 講演会	1					30
Dietrich Spitzner 教授 講演会	1					45
Arnis Kuksis 教授 講演会	1					42
日本人学者講演会(9件)						
橋本 和仁 教授 講演会	1					70
畑中 研一 教授 講演会	1					250
吉良 満夫 教授 講演会	1					45
稲垣 道夫 教授 講演会	1					52
上田 実 教授 講演会	1					83
吉田 潤一 教授 講演会	1					150
碓屋 隆雄 教授 講演会	1					150
村井 章夫 教授 講演会	1					150
金政 修司 教授 講演会	1					150
共催事業(共催討論会)						
ナノスケール触媒作用国際シン ポジウム	1					
超臨界流体中での分子変換反応 シンポジウム	1					
第41回オーロラセミナー	1					
生体機能感染化学部会リサーチサロン	1					
第5回高難度選択酸化反応シン ポジウム	1					

(2) 東北支部

事業名	回数	講演件数 ( )内は 特別講演 件数	見学 (回)	その他	懇親 会	参加 者数
【会議】 幹事会	3				2	

学会賞等推薦委員会	2					
代議員会	1					
プログラム編成会議	1					
岩村会長との意見交換会(支部訪問)	1					1
【事業】						1
化学系7学協会連合東北地方大会	1	334(13)				1
東北地区化学教育研究協議会	1	19(2)				1
東北支部長賞	1					
地区講演会						
弘前地区	1	3				1
福島地区	1	1				1
岩手地区	1	3				1
秋田地区	1	1				1
会員増強のための講演会(山形)	1	1				1
講習会						
高分子コロキウム	1	4				85
無機・分析化学コロキウム	1	6				1
有機化学コロキウム	1	7				1
層間化学コロキウム	1	7				1
物理化学コロキウム	1	8				1
化学普及(化学教育)事業						
化学への招待						
弘前地区(東北支部第89回)	1					1
八戸地区(東北支部85回)	1					1
秋田地区(東北支部第88回)	1					24
岩手地区(東北支部第86回)	1					32
山形地区(東北支部第87回)	1					38
宮城地区(東北支部第84回)	1					94
福島地区(東北支部第90回)	1					30
中学生のための化学実験講座 (鶴岡)(東北支部第91回)	1					1
1						391
中高生のためのオータムレクチャー (福島)(東北支部第92回)	1					1
1						82
第24回教師のための化学教育 講座	1					1
1						64
全国高校化学グランプリ2001一次選考 共催事業	1					128
第17回表面技術セミナー	1	4				173
第35回秋田化学技術協会研究 技術発表会	1	16				1
1						59
The 7th Sendai Symposium on Advanced EPR	1	14				1
1						46
第33回セミコンファレンス	1	10				1
1						94
第5回理論化学討論会	1	100				1
1						80
わくわく実験科学教室	1					97
無機金属化学国際シンポジウム	1	12				1
1						104

(3) 関東支部

事業名	回数	講演件数 ( )内は 特別講演 件数	見学 (回)	その他	懇親 会	参加 者数
幹事会	5					2
常任幹事会	1					
代議員会	1					1
各賞推薦委員会	1					
会員委員会	1					
事業企画委員会	2					
R & D 懇話会企画委員会	1					
支部化学教育協議会関係 ・全体会議	1					1
・化学教育講習会小委員会	2					
・化学クラブ小委員会	1					
講演会「IT時代のマテリアル化 学」	1	5				97
講演会「燃料電池実用化の現状と 展望」	1	5				54
講演会「ポストゲノム研究と化学」	1	5				52



「液体・固体 NMR の基礎および 応用講習会」	1	6		65	一成蹊大学 1 日体験化学教室	1	1	実験 18 テーマ	140
「化学安全教育講習会—各現場の 化学品の安全管理とその対策」 講習会「化学研究者のための特許 入門—研究成果を知的財産化する ために」	1	5		62	一東邦大学夏休み理科教室	1		実験 2 テーマ	59
CSJ 短期集中講座 ・No. 1 「ゾル・ゲル法の実用化」 ・No. 2「超臨界流体の特性と応用」	1	3		79	一群馬大学 1 日体験化学教室	1		実験 17 テーマ	123
R & D 懇話会 ・定例会	6	6	6	147	一東京農工大学 1 日体験先端化 学研究	1		実験 30 テーマ	87
・就職担当教員と人事担当者の交 流会	1			88	一横浜国立大学 1 日体験物質工 学教室	1	1	実験 12 テーマ	55
地域懇談会 ・茨城地区 高校教諭との懇話会 地域懇談会(ポスター形式)	1			10	一東京都立大学 1 日体験化学教 室	1		実験 14 テーマ	181
	1		ポスター 発表 70 件	220	一筑波大学 1 日体験化学教室	1	1	実験 13 テーマ	98
・栃木地区 講演会 訪問講義実験	2	5		110	一新潟大学 “高校生と教員のた めの化学実験公開講座”	1	1	実験 24 テーマ	72
・群馬地区 講演会 理科教育談話会 高校派遣授業 地域懇談会	2			75	一山梨大学 1 日体験化学・生物 教室	1		実験 16 テーマ	78
	1	2		281	・化学教育講習会	1	6		51
	1			25	・第 5 回理科・化学教育懇談会 フォーラム	1	4		53
	8			1440	・化学クラブ研究発表会	1		発表 18 件	196
	1	1	ポスター 発表 35 件	88	・化学実験実技講習会	1	1		26
・山梨地区 高校・大学化学系教官懇談会 講演会 高校訪問講義実験 見学会	1			24	・楽しい化学の実験室	8	8		220
	1	1		60	・高校生のための化学実験講座	6	6		101
	2			101	【共催・協賛・後援事業】 3 件の共催・協賛・後援依頼を 承認した	6	6		90
	1			23					
・新潟地区(長岡) 講演会 講習会 公開講座 出前授業 講演会と企業紹介	1	1		67	(4) 東海支部				
	1			19					
	2			433					
	1	1	企業 8 社	41					
・新潟地区(新潟) 地方大会(研究発表会) 学校訪問実験 講演と企業交流会	1	115(3)		220	幹事会	2			1
	2			56	常任幹事会	3			
	1		企業 9 社	105	代議員会	2			
・埼玉地区 化学教養セミナー 埼玉大学工学部オープンハウス 公開講座	1			27	学会賞等推薦委員会	1			
	1			500	職域代表者会議	1			
	1			100	会長懇談会	1			
・千葉地区 学校訪問講義実験 高校教諭と大学教官との懇談会 千葉県内の大学教官との懇談会	3			140	科研費候補者審査委員候補者選考 会議	1	1(1)		1
	1			16	化学教育研究協議会	1	1		
	1			25	訪日学者講演会	1			
・神奈川地区 講演会 高校の先生との意見交換会 学校訪問講義実験	3	3		136	Prof. Juergen Simon	1	1		20
	1			5	Prof. P. Selvam	1	1		29
	2			65	Prof. P. Selvam	1	1		60
・東京地区 学校訪問講義実験	1			35	Ellen Ivers—Tiffe	1	1		30
化学教育関連事業 ・化学への招待—講演会 ・化学への招待	1	3		85	Dr. Benjaram Mahipal Reddy	1	1		40
一茨城大学 1 日体験化学教室	1	1	実験 12 テーマ	28	Prof. Bernhard Lippert	1	1		30
一東京大学 1 日体験化学教室	1		実験 13 テーマ	94	Bernhard Lippert	1	1		40
一宇都宮大学 1 日体験化学教室	1	1	実験 21 テーマ	95	Prof. Eugene Babaev	1	1		42
一日本大学 1 日体験化学教室	1	1	実験 10 テーマ	98	Dr. Vijay Nair	1	1		40
一神奈川大学 1 日体験化学教室	1		実験 11 テーマ	30	Prof. Tatyana Shekhovtsova	1	1		25
					Prof. V. Ramamurthy	1	1		30
					Gisele Boiteux	1	1		30
					W. Lindner	1	1		45
					Uri Banin	1	1		30
					Marc Greenberg 教授	1	1		20
					Prof. Charles A. Waldren	1	1		21
					地区講演会				
					愛知地区講演会	1	4		141
					三重地区講演会	1	2	1	45
					静岡地区講演会	1	2	1	100
					中学・高校生のための化学講座	1			
					名古屋大学理学部	1	1	2	35
					三重大学工学部	1		1	106
					岐阜大学工学部	1			95

静岡大学工学部	1			61	第1回理科・化学教育サロン in	1	2		1	27
信州大学教育学部	1			48	富山					
鈴鹿工業高等専門学校	1			62	大学化学入試問題をめぐる大学～	1			1	109
沼津工業高等専門学校	3		1	66	高校交流会					
公開講座“くらしの中の化学”	1		2	131	第3回工業高等専門学校生化学研	1		発表11件		49
大学公開講座	1		3	1926	究発表会					
R & D パネル討論会	1		3	45	第16回石川地区中学高校生徒化	1		発表21件		220
化学教育セミナー	1		2		学研究発表会					
夢化学21	1			92	第18回高等学校・中学校生徒化	1		発表14件		81
化学への招待	1		3	130	学研究発表会					
名古屋コンファレンス	1		6	107	第3回近畿地区 化学教育研究発	1		発表8件		28
共催・協賛事業					表会					
新科学技術体系とロードマップ	1		4	150	化学への招待	1				
第19回人工結晶学会特別講	1		5(1)	84	・子と親の楽しいかがく教室(大	1		実験12		57
演会					阪工業高等専門学校)			テーマ		
第4回「リフレッシュ理科教室」	1				・子と親の楽しいかがく教室(大	1	1	実験11		152
油化学セミナー油化学とナノテ	1		4	51	阪教育大学)	1	1	テーマ		
クノロジー					・企業見学・講演会(松下電池工	1	1	実験有		38
第25回基礎化学工学演習講座	1		6	57	業)					
(第1コース)					高等学校出前講演会					
(第2コース)	1		6	34	・滋賀県立虎姫高等学校	1	1			125
第7回科学と生活のフェスティ	1				・清風南海高等学校	1	1			250
バル					・兵庫県立尼崎小田高等学校	1	1			50
第36回天然物化学談話会	1				・京都府立桃山高等学校	1	1			20
夢・化学21名古屋大学実験講	1			65	第2回化学グランプリ一次予選会	1	1			65
習会					(大阪)					
第33回CVD研究会	1			38	第2回化学グランプリ一次予選会	1				44
第11回基礎および最新の分析	1			48	(石川)					
化学講習会					夢・化学—21講演会「快適な暮	1	1			35
第32回中化連秋季大会	1		336	615	らしのサイエンス'01」					
第44回技術談話会「最新の省	1		7	44	夢・化学—21 大学一日体験入学					
エネルギー技術」					・大阪府立大学	1		実験有		300
第9回東海高分子基礎研修コー	1		9	23	・同志社大学	1	1	実験有		128
ス					・大阪工業大学	1	3	実験有		87
第23回技術セミナー—激動の	1		4	174	・京都工芸繊維大学	1	1	実験有		139
時代の企業戦略—					・富山大学	1	1	実験有		62
第35回化学工学の進歩講習会	1		27	99	・日本分析化学専門学校	1	1	実験有		41
廃棄物の処理—循環社会に向					・大阪市立大学	1	1	実験有		78
けて—					・京都大学工学部	1	2	1	実験有	72
先端技術フォーラム2001名古	1		7		・近畿大学	1	1	実験有		90
屋					・関西大学	1	1	実験有		67
東海化学工業会セミナー	1		5	85	・立命館大学	1		実験有		138
第7回名古屋メダルセミナー	1				・神戸大学	1	1	実験有		100
第7回カーボンマイクロコイル	1		13	84	・大阪大学工学部	1	1	実験有		72
(CMC)研究会					・奈良教育大学	1		実験有		98
第34回CVD研究会	1		5	39	・大阪大学基礎工学部	1	1	1	実験有	44
第46回人工結晶討論会	1			180	・大阪教育大学	2			実験有	60
市民のための化学講座	1		1	41	・大阪大学理学部	1	1	1	実験有	101
東海シンポジウム	1		11	37	・関西学院大学理学部	1	1		実験有	38

(5) 近畿支部

事業名	回数	講演件数 ( )内は 特別講演 件数	見学 (回)	その他	懇親 会	参加 者数
幹事会	5				3	233
常任幹事会	2					44
WG会議	1					46
代議員会	2					46
学会賞等推薦委員会	1					25
化学教育協議会	1					13
化学への招待企画小委員会	2					22
特別講演会「化学と産業」	1	3				96
北陸地区講演会と研究発表会	1	153(2)		1		351
滋賀地区講演会	1	3		1		28
第8回化学安全講習会	1	7				59
研究最前線講演会・交流会	1	4		1		66
講習会「研究室で実現できる最新 化学計算」	1	2		実習あり		24
化学教育サロン	1	4			1	74

(6) 中国四国支部

事業名	回数	講演件数 ( )内は 特別講演 件数	見学 (回)	その他	懇親 会	参加 者数
幹事会	3					113
会長と支部幹事との懇談会	1				1	37
会長と若手研究者との懇談会	1					20
支部化学教育協議会	2					31
代議員会	1					20
各賞推薦委員会	1					12
中国四国・九州支部合同大会	1	特別(3) 一般285 依頼36 ミニシボ16			1	480
地区化学講演会						
広島地区化学講演会	1	3				62
鳥取地区化学講演会	1	4				42
愛媛地区化学講演会	1	3				100
徳島地区化学講演会	1	3				132

国際交流講演会					第38回分析化学講習会	1	(2), 17		講義, 1	81	
A.F. Martin 教授講演会	1	1	35		第23回光化学若手の会	1	(3)		話題提供, 1	57	
R.W. Woody 教授講演会	1	1	61		第24回溶液化学シンポジウム	1	(3), 49		ポスター, 1	169	
久保伊佐夫教授講演会	1	1	50		第5回生体触媒化学シンポジウム	1			ポスター, 1		
C. Lapinte 教授講演会	1	1	51		科学実験パブリオン	1			実験, 1	21	
化学教育研究発表会	1	(2), 17	70	1	おもしろ化学探検館	1			展示, 実験, 1	3,808	
支部広報事業, 夢・化学—21 事業					協賛・後援事業						
鳥取: 夢・化学—21 化学への招待 鳥取大学1日体験化学教室	1		50	実験	第42回ガラスおよびフォトニクス材料討論会	1					
親子で楽しむ化学実験			150	実験	日本材料科学会中国四国支部講演会	1	4				
鳥根: 夢・化学—21 化学と遊ぼう	1		277	実験	「高性能電池開発のための新材料」	1					
岡山: 夢・化学—21 高校生のための岡山大学化学系見学会と懇話会	1		114	研究室紹介, 懇話会, 1	山口大学理学部 サイエンスワールド 2001	1	3		展示, 1		
岡山: 岡山県内高等学校への化学の広報	1		45	ビデオ上映, 講演, 懇話会	ハイテックシンポジウム 2001 秋	1	1		実験, 1		
広島: 夢・化学—21 大学見学会 化学への招待—高校生のために	1		226	演 示 実 験, 研究 室公開 討論会	カマツ						
広島: 高校・大学化学教育懇話会	1	2	33		(7) 九州支部						
山口: 夢・化学—21 化学への招待「山口大学1日体験化学教室」	1		31	実験, 研究 室紹介, 授 業体験	幹事会	2					
徳島: 夢・化学—21 化学への招待—先端技術をのぞく—徳島大学1日体験入学	1		69	実 験, 体 験入学	化学教育協議会支部幹事会	2					
香川: 香川化学教育研究会	1		38	研究発表, パネル	常任幹事会	1					
愛媛: 夢・化学—21 化学の学校・1日体験入学「化学実験の楽しみ」	1		192	実 験, 研究 室 紹介	代議員会	1					
高知: 中高一貫教育に向けての化学実験講座	1		79	実 験	職域会員代表会	1					
高知: 大学公開化学実験	1		100	実 験	講演会	1		1		40	
夢・化学—21 こうえん会—不思議の世界	1	2	60		第22回支部シンポジウム「環境と化学と科学」	1	3		市民フォーラム4件	1	
おもしろワクワク化学の世界'01	1		7,168	展示(24), 実験, 質問	第38回化学関連支部合同九州大会(8学会共催)	1	8(1)		ポスター 発表420	1	
山口化学展				コーナー	各賞等推薦委員会	1					
出張講義	32		1,818	講義	九州支部フォーラム	1					
日本化学会中国四国支部長賞			66	賞状授与	第11回高専フォーラム「高専における産学連携」	1	4(1)			1	
				工業高校 29校32名	第12回産学交流ユースフォーラム	1	2		参加企業14社, 大学6工10学部, 高専3校, 官公庁3団体	1	
				高専 4校4名	環境・安全に関する事業	1		6		懇談	1
				大学 17校30名	「大学における安全教育と安全管理に関するスクーリング」						111
第34回中国四国支部化学懇話会	1	6	81	1	共催事業	1		4(2)	口頭発表25, 1	280	
第35回中国四国支部化学懇話会	1	8	80	1	第17回化学反応討論会	1			ポスター発表 総数133		
支部基盤特別事業					九州夏期セラミックス研究会	1	(3)	1	一般発表24	1	
化学(理科)教育の在り方を考えるシンポジウム	1	(1)	125	1	第19回九州コロイドコロキウム	1	6		ポスター 発表8	1	
—特別講演とパネルディスカッション—					第14回日本無機リン化学討論会	1	40(1)				60
大学における安全教育と安全管理に関するスクーリング	1	7	110	懇談	第40回工業物理化学講習会	1		4			77
香川地区産学官交流会	1		29	情報交換	平成13年度 森野レクチャー	1		1		1	50
情報ネット推進事業	1			ホームページ更新	セラミックスセミナー —押出し成形 理論と実習—	1			1	講 義, 1	20
研究一覧ホームページ化				科研費項目の変更	第42回分析化学講習会	1		3			75
共催事業					第19回有機合成化学夏季大学	1		13		授賞講演, 1	224
第11回金属の関与する生体関連反応シンポジウム	1	(2)28	131	1	第1回ペプチドフォーラム	1	10(1)			1	72
新ミレニアムを目指した超分子科学の夢	1	(16)9	127	1	第26回大環状化合物に関する国際会議	1	20		口頭発表, 1		374
第31回構造有機化学討論会	1	73	374	1	2001 アジア—太平洋放射化学シンポジウム	1	16(1)	1	口頭講演 73, 1		293
第51回錯体化学討論会	1	(39)282	995	1					ポスター 発表98		

第29回化学への招待					第2回理科・化学教育研究発表会	1		口頭発表,ポスター発表	250
第1部 高校生のための化学実験教室	1		1	体験型実験	36				
第2部 中学生のための化学実験教室	1			体験型実験	33				18
第3部 クリスマス化学実験教室	1	1		実験テーマ3	67			実験テーマ19	177
第30回化学への招待	1	1		実験テーマ8	55				
第31回化学への招待	1			実験テーマ12	2152			見学, 演 示実験	25
第32回化学への招待 —テクノファンタジー—2001 かがくで遊ぼう	1			演 示 実 験	2760			見学, 演 示実験	25
Gisbent Winnewisser 教授 講演会	1				20(10)				
Chung Yup Kim 教授 講演会	1				30(25)				
M.G. Finn 教授 講演会	1				50(40)			授業見学, 研究紹介	21
Duncan W. Bruce 教授 講演会	1							40名2クラス	80
Marek Pietraszkiewcs 教授 講演会	1				25(20)				
Oliver Kuehn 教授 講演会	1								
Viktor V. Zhdankin 教授 講演会	1				30(24)				
Marian Mikolajczyk 教授 講演会	1				35				
James M. Cook 教授 講演会	1	1			41(33)				162
Helmut Schwarz 教授 講演会	1								
Marc Benard 教授 講演会	1								
九州地区化学振興事業									
第9回九州地区高等学校化学クラブ研究発表会	1				130				
福岡県:			1						
第15回福岡県高等学校化学クラブ研究発表会	1							講演, 討論, 体験実験	6
佐賀県:									
理科・化学教育懇談会 総会	2								
理科・化学教育研究発表会	1				9			実験演習 講話	80
実行委員会									
第2回理科・化学教育研究発表会	1								
長崎県:									
理科・化学教育懇談会 第3回総会	1								
第2回「化学まつり」	1								
熊本県:									
第5回理科・化学教育懇談会	1								19
第3回理科・化学教育懇談会 化学実験講習会	1								25
第4回理科・化学教育懇談会 化学実験講習会	1								25
夢化学探検 2001	1								
大分県:									
中学生職場体験学習	1								
高校への出前講義	1								
理科・化学教育懇談会総会・懇談会および意見交換会	1								
宮崎県:									
第3回高校生のための科学講演会	1	1							162
理科・化学教育懇談会 総会「第1回会員のための講演会」	1								
理科・化学教育懇談会 幹事会	3								
鹿児島県:									
第4回理科・化学教育協議会	1								
沖縄県:									
理科・化学教育懇談会総会と理科・化学教育フォーラム	1								80
高専関係:									
科学教育セミナー	1								
科学教育セミナー	1								

10. 平成14年度支部幹事

(1) 北海道支部

支部長 長田 義人(北大院理)		清水 祐一(苫小牧高専)	芦高 秀知(千歳科技大)
副支部長 宮浦 憲夫(北大院工)		片岡 正光(小樽商大)	加我 晴生(産総研)
副支部長 片山 則昭(旭川高専)		山岸 暢(道工試)	高澤 俊英(帯広畜産大)
庶務幹事 武田 定(北大院理)	石山 竜生(北大院工)	小原 繁(北教大釧路)	下村 正嗣(北大電子研)
会計幹事 柘植 清志(北大院理)	山本 靖典(北大院工)	大谷 文章(北大触媒)	
幹事 上舘 民夫(北大院工)	出村 誠(北大院理)	環境・安全担当幹事	
浅川 哲弥(北教大旭川)	高橋 信夫(北見工大)	松田 冬彦(北大院地球環境)	高橋 順一(北大院工)
板橋 豊(北大院水)	松山 春男(室蘭工大)	監査 佐々木陽一(北大院理)	徳田 昌生(北大院工)

(2) 東北支部

支部長 鳥田 昌彦(東北大多元研)		*徳光 直樹(秋田高専)	*熊谷 直昭(岩手大工)
副支部長 原田 宣之(北大多元研)	大関 邦夫(弘前大理工)	*栗山 恭直(山形大理)	伊藤 和明(山形大工)
幹事 山根 久典(東北大多元研)	京谷 隆(東北大多元研)	城戸 英郎(鶴岡高専)	*長谷部 亨(福島大教育)
岡田 修司(東北大多元研)	*甲 國信(東北大院理)	安並 正文(日大工)	内田 修司(福島高専)
*玉木 洋一(宮城教育大教育)	*正田晋一郎(東北大院工)	大波 哲雄(福島医科大)	
*福村 祐史(東北大院理)	*相馬 知彦(富谷高)	会計監査 伊藤 翼(東北大院理)	宮仕 勉(東北大院理)
糠塚いそし(弘前大理工)	吉澤 篤(弘前大理工)	(*化学教育協議会支部幹事)	
*関 博之(弘前大教育)	小比類卷孝幸(八戸工大)		

(3) 関東支部

支部長 奈良坂紘一(東大院理)		下山 淳一(東大工)	鈴木 榮一(東工大院理工)
副支部長 井上 晴夫(都立大院工)	四方 和夫(トクヤマ)	鈴木 孝治(慶應大理工)	関根 俊明(原研)
幹事 阿久津文彦(千葉大工)	池田 富樹(東工大資源研)	高橋 浩(三菱化学)	滝戸 俊夫(日大理工)
石塚 紀夫(新潟大理)	岩崎 弦(NTT)	辰巳 敬(横国大院工)	田中 進(産総研)
岩田 耕一(東大院理)	岩橋 槇夫(北里大理)	丹所 正孝(物質・材料研究機構)	千田 憲孝(慶應大理工)
岩本 一星(埼玉大工)	大橋弘三郎(茨城大理)	長瀬 裕(東海大工)	鍋島 達弥(筑波大化)
岡田 哲男(東工大院理工)	荻野 賢司(東農工大院生物)	西口 郁三(長岡技科大工)	西村 淳(群馬大工)
尾崎 裕(城西大理)	鹿又 宣弘(明治大理工)	平谷 和久(宇都宮大工)	福沢 信一(中央大理工)
岸 浩(小山高専)	木羽 信敏(山梨大工)	堀 久男(産総研)	本多 裕(味の素)
木村 純二(青山学院大理工)	桐村光太郎(早稲田大理工)	松本 利彦(東京工芸大工)	溝部 裕司(東大生産研)
楠本 哲生(大日本インキ)	黒田 智明(立教大理)	森川 宏平(昭和電工)	森山 広思(東邦大理)
小中原猛雄(東理大理工)	小松 正典(ライオン)	八木 幹雄(横国大院工)	山崎 則次(ダイセル)
才野 哲之(日本化薬)	作田 庄平(東大院農)	山下 宏一(理研)	山下 正廣(都立大院工)
佐々木俊夫(住友化学)	柴 隆一(東京電機大工)	吉武 優(旭硝子)	

監 査 相澤 益男(東工大) 藤嶋 昭(東大院工)

(4) 東海支部

支部長 舟橋 重信(名大院理)	真鍋 礼男(住友電装)	村田 静昭(名大院環)
副支部長(中化連担当) 融 健(名工大応用)	山田 碩道(名工大応用)	
副支部長(次期支部長) 原口 紘炏(名大院工)	(次期庶務幹事)伊藤 秀章(名大難処理)	
庶務幹事 今榮東洋子(名大物質)	(次期会計幹事)竹内 豊英(岐阜大工)	
会計幹事 尾之内千夫(愛知工大)	幹 事 青井 啓悟(名大院生命)	池田 慎一(名市大薬)
常任幹事(本部理事) 富岡 秀雄(三重大工)	今枝 健一(中部大工)	国貞 秀雄(名工大材料)
常任幹事 尾形 照彦(静岡大理)	小西 英之(愛知教育大)	佐野 眞(名市工研)
亀頭 直樹(豊橋技科大)	佐野 三郎(産総研)	竹内 久人(豊田中研)
武田 保雄(三重大工)	日向 克雄(四日市合成)	藤本 哲也(信州大繊維)
(支部化学教育協議会委員長)立光 斉(名工大システム)	松島 良華(静岡大工)	森本 正雄(東レ)
中島 剛(信州大工)	吉野 節生(三井化学)	
林 永二(産総研)	新妻 裕志(東亜合成)	監 査 木村 馨(東亜合成)
	藤井 正明(分子研)	北川 禎三(岡崎国立共同研)

(5) 近畿支部

支部長 玉尾 皓平(京大化研)	松下 叔夫(阪市大院理)	小島 秀夫(大阪女子大理)
副支部長 大船 泰史(阪市大院理)	水野 一彦(阪府大院工)	松原 浩(阪府大総合科学)
次期支部長 加納 航治(同志社大工)	成相 裕之(神戸大工)	野々瀬真司(神戸大理)
本部副会長 城田 靖彦(阪大院工)	松尾 吉晃(姫路工大)	山田 順一(姫路工大理)
本部理事 高橋 成年(阪大産研)	相馬 芳枝(大工研)	塚原 敬一(奈良女子大理)
檜山爲次郎(京大院工)	山崎 祥子(奈良教育大教育)	坂本 英文(和歌山大システム工)
監 査 井上 正志(京大院工)	木村 憲喜(和歌山大教育)	塚越 一彦(同志社大工)
幹 事 椿 範立(富山大工)	白石 晴樹(立命大理工)	荒川 隆一(関西大工)
長谷川 浩(金沢大工)	野村 良紀(阪工大工)	田辺 陽(関西学院大理)
高木 昌宏(北陸先端大)	藤原 尚(近畿大理工)	吉村 忠与志(福井高専)
中田 隆二(福井大教育地)	町田 信也(甲南大理工)	境 哲男(産総研)
時任 宣博(京大化研)	田中 守(神戸高専)	桜井 芳昭(阪府産技総研)
宇山 浩(京大院工)	橋本 圭司(阪市工研)	日色 知樹(鐘淵化学)
江口 浩一(京大院工)	川俣 章(花王)	石塚 夏樹(塩野義製薬)
田部勢津久(京大総合人間)	田口 敬之(三洋化成)	柴山 晃一(積水化学)
嶋田 豊司(京大院理)	渡辺 敬介(住友化学)	高橋 郁夫(ダイセル化学)
細矢 憲(京工織大織)	大菊 鋼(田辺製薬)	加地 篤(東洋紡績)
廣瀬 敬治(阪大院基礎工)	橋口 昌平(武田薬品)	赤崎 一元(日本触媒)
町田 憲一(阪大院工)	上 真樹(東レ)	美濃 規央(松下電器)
楠木 正己(阪大蛋白研)	桂 洋介(藤沢薬品)	
川瀬 毅(阪大院理)	金村 芳信(三井化学)	
神鳥 和彦(阪教大)	化学教育協議会近畿支部議長 隈 弘夫(阪大院理)	
	化学への招待小委員長 有賀 正裕(阪教大)	

(6) 中国四国支部

支部長 山下 和男(広島大総合)	菊地 正(山口東京理科大)	山田 哲夫(宇部興産)
副支部長 時任 康雄(クラレ)	峰松 宏昌(帝人高分子研)	赤木 博(大塚化学)
支部監査 富永 敏弘(岡山理大工)	村田 勝夫(鳴門教育大)	本仲 純子(徳島大工)
次年度支部長 小倉興太郎(山口大工)	合谷 祥一(香川大農)	三浦 昌三(四国化成工業)
地区幹事 伊藤 敏幸(鳥取大工)	浅田 洋(愛媛大理)	佐藤 公彦(帝人松山)
鳥原 正浩(クラレ)	田中 慎(住友化学)	井上 賢三(愛媛大工)
沢木 至(三菱化学)	北條 正司(高知大理)	
酒井 貴志(岡山大工)	支部化学教育協議会委員長 東 長雄(愛媛大理)	
白石 浩平(近畿大工)	次年度支部化学教育協議会委員長 古川 義宏(広島大院教育)	
大方 勝男(広島大院理)	事務局長 玉井 久司(広島大院工)	
坂井 春夫(三菱レイヨン)	会計幹事 山本 陽介(広島大院理)	
石黒 勝也(山口大理)	庶務幹事 犬丸 啓(広島大院工)	相田美砂子(広島大院理)
高橋 満(東ソー)	早瀬 光司(広島大総合)	
大上 典行(出光石化)		
杉原 美一(山口大理)		
宮本 陽司(トクヤマ)		
佐藤 守之(鳥根大総合理工)		
小西満月男(旭化成)		
柴田 高範(岡山大理)		
野崎 浩(岡山理大理)		
飯田 耕三(三菱重工)		
山中 昭司(広島大工)		
溝口 忠昭(パプコック日立)		
森田 昌行(山口大工)		
猪木 哲(三井化学)		
土屋 正三(トクヤマ)		

(7) 九州支部

支部長 南 享(九工大工)	祢宜田啓史(福岡大理)	鎌田吉之助(久留米高専)
副支部長 岡野 徹(旭化成)	宮本 信明(有明高専)	安達 芳雄(産総研九州センター)
次期支部長 前田 米蔵(九大院理)	中島 道夫(佐賀大文化教育)	尾野村 治(長崎大薬)
庶務幹事 大瀧 倫卓(九大院総理工)	石川 雄一(大分大工)	城 昭典(熊本大工)
会計幹事 山中美智男(九大院理)	今福 公明(熊本大理)	松本 陽子(崇城大工)
教育幹事 今福 公明(熊本大理)	神野 好孝(鹿児島工技セ)	前田 環(鹿児島大理)
幹 事 千崎 利英(新日鐵化学)	町田 正人(宮崎大工)	小柳 元彦(琉球大教育)
小川 建志(三菱ウェルファーマ)	米光 直志(九産大工)	
伊豆川 作(三井化学)	監 査 新海 征治(九大院工)	山本 博之(新日鐵化学)
関 徹(日本合成化学工業)	本部理事 大川 尚士(九大院理)	
上柳 薫(旭化成)	化工誌編集委員 石黒 慎一(九大院理)	
清賀 和法(小倉合成工業)	環境安全推進委員	
丸山 昭吾(味の素)	石橋 康弘(長崎大環境保全センター)	滝田 祐作(大分大工)
柘植 顕彦(九工大工)	宮島 徹(佐賀大理工)	
横山 拓史(九大院理)		
石川 誠(三菱化学)		
武内 治紀(電気化学工業)		
河村 憲男(住友化学工業)		
西川 正彦(チッソ)		
安武 昭典(三菱重工)		
内田 博(昭和電工)		
今泉 幸男(九州電力)		
田中 紀之(福岡教育大)		

11. 平成 13 年度部会事業

(1) コロイドおよび界面化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	3				
顧問会					
監査会					
財務委員会					
ニューズレター編集委員会	4				
企業委員会	2				
事業企画委員会	4				
Lectureship Award 選考委員会	1				
討論会実行委員会	3				
討論会プログラム編成会	1				
ニューズレター発行	4		26 巻 2 号～27 巻 1 号		
第 17 回現代コロイド・界面化学基礎講座 —新入社員のためのコロイド・界面化学への近道—	15	106			
第 5 回コロイド・界面技術者フォーラム	5	34			
第 14 回コロイド・界面実用講座 高分子型燃料電池の新展開—クリーンエネルギーの新展開	7	38			
第 19 回関西界面科学セミナー —界面科学が拓くナノテク新世紀	7	55			
第 19 回九州コロイドコロキウム	14	71			
第 54 回コロイドおよび界面化学討論会	334	520			
第 6 回関西コロイド・界面実践講座特別企画 —微粒子の応用にまつわる術(わざ)と評価	5	60			
第 15 回コロイド・界面実用講座 —界面における新しいナノ領域科学—	12	35			
第 19 回コロイド・界面技術シンポジウム —ヘア&スキンプロテクション—	12	117			

(2) 情報化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
総会	1				
役員会	2				
常任幹事会および CICSJ Bulletin 編集委員会	6				
CICSJ Bulletin 発行	6		19 巻 2 号～20 巻 1 号 11 報掲載 (J-Stage) 1 報表彰		
電子ジャーナル (J. Comp. Aided Chem.) 刊行					
JCAC 論文賞 表彰 前年の投稿論文 (12 報が対象)	1				
第 24 回情報化学討論会 11 月 7 日～9 日 於 徳島大学	1	75		1	134
同 討論会要旨集電子化	1		75 報掲載 (J-Stage)		
ワークショップ	1			1	50

(3) 生体機能関連化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
第 16 回生体機能関連化学シンポジウム	1	182		1	320
第 16 回生体機能関連化学シンポジウム若手フォーラム	1	19 (5)		1	70
生体機能関連化学部会講習会	2	10		2	150
生体機能関連化学部会「若手の会」サマーセミナー 2001	1	7		1	49
ニューズレターの発行	4		第 16 巻第 1 号～第 4 号		

(4) バイオテクノロジー部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
第 5 回バイオテクノロジー部会シンポジウム	1	71		1	160
ニューズレターの発行	2				

(5) 有機結晶部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
第 17 回有機結晶部会シンポジウム	1	40 (4)		1	
ニューズレターの発行	2				

## 12. 平成14年度部会役員

### (1) コロイドおよび界面化学部会

部会長 金子 克美 (千葉大理)		中前 勝彦 (高輝度光科学研究セ)	西原 寛 (東大院理)
副部会長 加藤 貞二 (宇都宮大工)	田川 徹 (三菱化学)	野田 章 (資生堂)	芳賀 正明 (中央大理工)
幹事 秋吉 一成 (京大院工)	阿部 正彦 (東理大理工)	日高 久夫 (明星大理工)	平岡 俊郎 (東芝)
荒殿 誠 (九大理)	有賀 克彦 (科学技術振興事業団)	牧野 公子 (東理大薬)	増原 宏 (阪大院工)
岩澤 康裕 (東大院理)	岩橋 楨夫 (北里大理)	松岡 秀樹 (京大院工)	三輪 哲也 (海洋科学技術セ)
大坂 武男 (東工大院総理工)	尾関 寿美男 (信州大理)	椋木 康雄 (富士フィルム)	山内 仁史 (第一製薬)
小原 康弘 (ポーラ化成)	加藤 直 (都立大院理)	湯浅 真 (東理大理工)	吉川 研一 (京大院理)
亀井 隆広 (ソニー)	君塚 信夫 (九大院工)	和田 雄二 (阪大)	
國枝 博信 (横浜国大院工)	栗原 和枝 (東北大多元研)	北海道地区幹事 市川 勝 (北大触媒セ)	
坂本 一民 (味の素)	坂本 宗寛 (三菱化学)	東北地区幹事 森 誠之 (岩手大工)	
佐藤 明 (秋田県立大システム科学技術)	佐藤 直紀 (花王)	東海地区幹事 関 一彦 (名大物質科学研究セ)	
澤田 嗣郎 (東大院新領域)	杉本 忠夫 (東北大多元研)	関西地区幹事 嶋林 三郎 (徳島大薬)	
鈴木 敏幸 (花王)	武井 孝 (都立大院工)	中国地区幹事 橋高 茂治 (岡山理大理)	
田村 隆光 (ライオン)	土井 正男 (名大院工)	四国地区幹事 金品 昌志 (徳島大工)	
戸嶋 直樹 (山口東理大基礎工)	内藤 昇 (コーセー)	九州支部幹事 杉原 剛介 (福岡大理)	
		監査 竹中 亨 (岡山理大理)	辻井 薫 (海洋科学技術セ)

### (2) 情報化学部会

部会長 細矢 治夫 (お茶大理)		坂本 直紀 (旭化成)	重光 保博 (長崎県工業技術セ)
副部会長 高田 章 (旭硝子)	船津 公人 (豊橋技科大工)	相馬 融 (科学技術政策研究所(科技団))	鷹野 景子 (お茶大理)
幹事 相田美砂子 (広島大院理)	大和田智彦 (東大院薬)	高島 哲彦 (住友化学)	中山 伸一 (図書館情報大)
越智 洋司 (徳島大工)	金谷 重彦 (奈良先端大)	藤井 宏行 (三菱化学倉敷)	藤原 巖 (大日本製薬)
河村 雄行 (東工大院惑星地球)	北尾 修 (東大院工(産総研))	監査 三戸 邦郎 (三井化学)	時田 澄男 (埼玉大工)

### (3) 生体機能関連化学部会

部会長 加納 航治 (同志社大工)		小夫家芳明 (奈良先端大院大)	田中健太郎 (東大院理)
副部会長 青山 安宏 (京大院工)	原田 明 (阪大院理)	中辻 洋司 (阪大院工)	成田 吉徳 (九大有機基礎研究セ)
長野 哲雄 (東大院工)		橋口 昌平 (武田薬品)	浜地 格 (九大院工)
幹事 秋吉 一成 (東京医歯大)	伊東 忍 (阪市大院理)	増田 秀樹 (名工大工)	末永 智一 (東北大院工)
市川 和彦 (北大院地球環境)	岩下 孝 (サントリー生物有機研)	三原 久和 (東工大院生命理工)	矢野 重信 (奈良女大院人間文化)
梅澤 喜夫 (東大院理)	岡畑 恵雄 (東工大院生命理工)	渡辺 芳人 (分子研総合バイオセ)	
小倉 克之 (千葉大工)	小田嶋和徳 (名市大院薬)	監査 新海 征治 (九大院工)	杉浦 幸雄 (京大化研)
功刀 滋 (京工織大織)	栗原 和枝 (東北大反応研)		

### (4) バイオテクノロジー部会

部会長 今中 忠行 (京大院工)		富田 房男 (北大院農)	西野 徳三 (東北大院工)
副部会長 大倉 一郎 (東工大院生命理工)		福住 俊一 (阪大院工)	松永 是 (東農工大工)
幹事 相澤 益男 (東工大)	遠藤弥重太 (愛媛大工)	監査 渡辺 公綱 (東大院工)	
太田 博道 (慶大理工)	小林 猛 (名大院工)	顧問 堀越 弘毅 (東洋大生命科学)	
下坂 皓洋 (キリンビール医薬)	杉本 直己 (甲南大理工)		
田中 渥夫 (中部大)	民谷 栄一 (北陸先端大)		

### (5) 有機結晶部会

部会長 大橋 裕二 (東工大院理工)		井口 洋夫 (宇宙開発事業団)	岩村 秀 (放送大)
副部会長 中西 八郎 (東北大多元研)	雀部 博之 (千歳科技大光科)	戸田美三夫 (岡山理大理)	
小倉 克之 (千葉大工)		ニュースレター編集委員 岡田 修司 (東北大多元研)	
幹事 小林 啓二 (東大院総合文化研)	佐藤 直樹 (京大化研)	赤染 元浩 (千葉大工)	植草 秀裕 (東工大院理工)
中筋 一弘 (阪大院理)	原田 明 (阪大院理)	田村 類 (京大院人間・環境)	田中 耕一 (愛媛大工)
岩崎不二子 (電通大電子物性)	岡本 佳男 (名大院工)		